



4月の講座は「知らなかったことがたくさん。楽しい」の声！ ちょっと難しい…がちょうどいい！未知の分野にも挑戦！

4月の各講座が無事終了しました。受講後みなさんに記入いただいた一言感想用紙には、新しい知識を得ることの楽しさや、ちょっと難しいかなという戸惑い、これまでの断片的な知識が整理されてスッキリ、などの声がたくさん書かれていました。また、同じ講義を聞いても人それぞれのとらえ方感じ方があります。いろんな声をこの通信で交流しながら、自分以外の考えも知り、そして受講していない他の講座にも興味を持ってもらえたらうれしいです。

運営に関するご意見もぜひお寄せください。4月は「もう少し段取りよく」とのご意見もありました。会場の確保が思うようにできなくてご迷惑をおかけしているところもあります。みなさんが気持ちよく受講できるよう努力します。

日程・会場変更



5/18(木)自然科学講座

市民交流プラザ→

三段池公園 武道館会議室に変更

(0773-23-6861)

5/24(水)すご技講座

会場…永明寺 駐車場集合

(福知山市牧 0773-33-2153)

7/6(木)寄席芸鑑賞講座

(日程 7/13→7/6 に変更を前号でお知らせしています)

市民交流プラザ→

中丹勤労者福祉会館 2階会議室に変更

4月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも
あります。ご了承ください)

◆時事問題講座 4月4日

「統一教会問題とは何だったのか」 講師:柿田睦夫氏

柿田さんの話は、統一教会問題追及の最前線で取材を続けて来た新聞記者出身らしくリアルで具体的なものでした。

まず、教団の教義である「祝福」と「万物復帰」を分かりやすく解説され、これらの教義が集団結婚式や靈感商法を生み出す基になっていると指摘された。

統一教会のもう一つの顔が「勝共」です。韓国のCIAの庇護を受け、日本では岸元首相と結ぶことで勢力を伸ばし様々な謀略活動を行ってきました。その最初が1970年の京都府知事選挙であったといわれています。時の政権と結ぶことで彼らの謀略がお墨付きを与えられた形になりました。これは憲法20条1項後段の「いかなる宗教団体も国から特権を受け、又は政治上の特権を行使してはならない」に反するものであることを指摘されました。

また、「犯罪ともいふべき実態」が野放しにされた原因として信教の自由との意識的な混同により行政が不作為を続けたこと、メディアの「不報」と市民社会の「無関心・他人事」もその一因であるとの指摘は重要だと思いました。

点、点であった知識が少し線になってきました。権力者というのはなんと巧妙に動くことか。

確かに過去の終わった問題ではないことを自覚しました。



いろんな情報が飛び交っていたので十分に頭が整理できていませんでしたが系統立ててお話いただいたのですいぶんスッキリしてきました。

資料もしっかりあり帰宅してからも詳細に見るつもりです。



◆寄席芸鑑賞講座 4月13日

「寄せの踊りについて」 講師：林家染雀氏

三扇さんの挨拶から始まり林家染雀さんが寄席の予備知識を説明された後、寄席劇場の紹介、そこで演じられる演者のシステム・慣例的な流れを教えてくださいました。寄席とは色んなものが寄せ集まった劇場のこと。落語ばかりでは疲れるから間に色ものが入る。マジック、大神楽とかりフレッシュできる。

落語家さんは楽屋入ってからネタ帳（誰が何をやったか書いてある）をみて演目を決める。臨機応変に客層や時間の関係で状況によって、踊りを入れたりする。噺家の踊りとは全体的に洒落てる。①笑わず②びっくりさせる。どちらかの要素が入ってるのが寄せの踊り、噺家さんの踊りである。

林家染雀さんに、ずぼらん、住吉踊りを披露して頂きました。そして、かっぱれを受講者さんにレクチャー、みんなで振りを真似て踊りました。最後に「せつほんかいな」（本当ですか？という意味）を踊ってくださり、踊りの終わりに「金のシャチホコ」をして下さいました。拍手で初回寄席芸講座は終了、大変有意義で楽しい講座になりました。

落語家さんが踊る事を初めて知った。体幹が、凄い。どんなに動いても着物が気崩れる事もなく、さすがプロ。

横道の話も面白くて、落語の間にある色ものの踊りを楽しくお話と実演に、あっという間の時間でした。



この講座は比較的高齢者が多いのですね。それで、話のペースが早くてちょっとついていくのが大変です。ただ滑舌が良かったので話は分かりました。他では殆ど見られない芸が見られて良かったです。



◆写真講座 4月18日

オリエンテーション 講師：四方智基氏

今年は13人の受講生でスタートしました。初回はオリエンテーション、自己紹介から。「長らく使っていないカメラを何とか使えるように」「我流で撮ってきたけど基本からしっかり身につけたい」「なかなか覚えられないカメラの機能をしっかりマスターしたい」「育てている花をきれいに撮りたい」など、それぞれの目標をもって受講されています。先生からは、これからの撮影会ごとのポイントなど説明してもらいました。その後、各自のカメラの機能の確認・設定の仕方など教えてもらいながら、室内で小物やプラレールなどを使っての撮影をしました。

5月からはいろんな場所を訪ねて撮影会を楽しみながら、腕を上げていきます。今年度の講座が終了する頃には、受講生同士で技術の交流、情報の交流ができるようになっていけばいいなあ、と思います。

なかなかカメラ機能を覚えられなくていつも先生に教えていただいていたので、撮ってる時間は楽しいです。

カメラの使い方がわからず、ずっと眠っているカメラだったので、これから楽しみです。



◆歴史講座 4月19日

「古代の丹後について」 講師：松尾史子氏

今年度1回目の講義は丹後の古代史、府立丹後郷土資料館の松尾資料課長の講義です。旧石器時代から平安時代まで丹後の歴史をたどりながら「丹後王国」の盛衰も含めて話を聞きました。

丹後の旧石器時代の遺跡から島根県隠岐産の黒曜石が見つかるなど、3万年以上の昔から他地域、他国と交流していたことにはびっくりです。

その後、弥生中期の後半頃（紀元前1世紀頃）に大陸や朝鮮半島から手に入れた鉄やガラス素材を素材にして鍛冶や玉造が盛んになり、この頃に「丹後王国」が出現したと考えていいのではないかとのことでした。

一方で、鉄やガラス製品を大量に製造していた痕跡は発見されるものの、その大量の製品が地元で消費されたとは考えにくく、どこに運ばれ、どこで使われたのかが分かっておらず、謎として残ったままだとも。

今後、新たな発見があれば「丹後王国」の実像が更にはっきり見えてきて、これまでの定説が変わってくるかも知れません。古代史への興味をグッと引き付ける講義でした。



以前から興味があった丹後王国の歴史がすこしでも知ることができた。出れば、丹後の古代をめぐる旅に(ゆっくり)出てみたい気持ちが高揚してきました。

史実は生きものだと思います。日本史は解明されたら変わっていくかもしれないですね。

ある程度、丹後古代史についての知識を前提としたお話であったように思う。知識のない私には少し難しかった。

遺跡から様々なことが解明されるのですね。記録された事もないのに、たぐっていくのは大変だろうと思いました。



久しぶりの地学。高校生に戻ったようです。6月の実地見学楽しみです。



学校でも教えてもらわなかった内容も多く、楽しかったです。写真もたくさんあり理解しやすい。

まったくの素人ですが、アカデミックな話に引き込まれました。

◆自然科学講座 4月20日

「世界・日本、北近畿の火山をめぐる」

講師：小滝篤夫氏

日本は世界でも有数の火山国です。北近畿地方に活火山はありませんが、他府県へ移動すると容易にみることができます。活火山の定義は、1万年前以降に活動している火山が当たります。日本の火山はプレートの沈み込みによってつくられたものだという事です。地上から見ていると、火山はこの国も同じように見えますが、成り立ちはプレートの沈み込み以外に、海嶺の地面（主に海底）が両方面に割れていき、そこからマグマが噴き出し火山となる中央海嶺のタイプがあります。これが地表に現れている場所がアイスランドです。3つ目はホットスポットによるもので、ハワイの火山やアメリカのイエローストーンが有名です。これはマントルから地上へマグマが噴き出し火山をつくっています。同じ風景でも成り立ち、原因や生成過程などは様々ありますが、これを学ぶことは人間模様を見ているようにも思えます。富士山は初めから今の姿ではなく、小御岳(こみたけ)火山から始まりいろいろな変遷を重ねて今日に至っています。

6月には夜久野の田倉山火山での現地講義で、小滝先生他2名の方の講義を受けます。



◆すご技講座 4月26日

「動物園を訪ねる」 講師：二本松俊邦氏

4月のすご技講座はちょっと異色、福知山市動物園園長のお話でした。

三段池の福知山市動物園はかつてウリボウの背中にしがみつくとニホンザルのかわいい姿が評判となり、全国から入場者が訪れ、最高時は1日の入場者が4700人を超えたそうです。二本松園長はこの時の裏話や苦労話などを面白おかしく報告。

話はさらにニホンザルやテナガザル、ゴリラなど各種の猿の特徴や違いなど小さな動物園を運営していく大変さ、入場者から動物に与えるえさを手作りしている話など多岐にわたり退屈しないお話をいただきました、講演の後、参加者は動物園に移動し各動物の檻の前で説明をいただく楽しい講座となりました。

動物園で愛される動物の様子がよくわかり飼育員の苦労もよくわかりました。園長様が楽しくお話しされてよかったです。

動物たちの区分のポイントについての説明が面白かった。

大変面白く意味ある話で一般市民にも聞かせてあげてほしい。

◆漢字学講座 4月27日

「漢字の基本—入門編」 講師：久保裕之氏

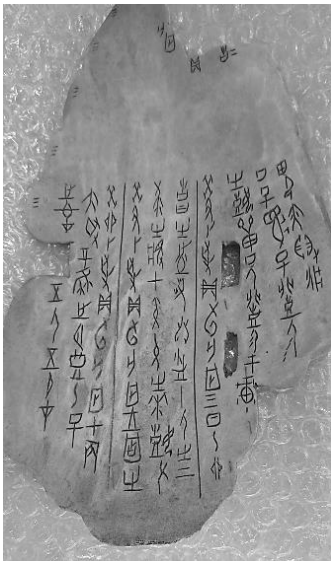


初めてで知らない事だらけ。漢字は苦手でしたが、成り立ちからとても興味深く好きになりそうです。頑張ります。

2023年度漢字学講座スタートです。今年度は教室一杯の受講生です。1年間よろしくお願ひします。

久保先生の明るく、漢字に対する深い愛情で楽しく漢字を学びましょう。漢字にまつわる雑学も毎回のお楽しみです。

1回目は漢字の基礎。漢字の成り立ちと形がどうかわってきたのかを学びました。世界一長く使われている文字「漢字」。かな文化であった日本で使うのは無理もあったようだが、3500年前に中国で生まれた漢字、奥が深い！



はるか昔、日本に入ってきた漢字。当時の日本人が苦労して、日本人用に表記を作ったことに感動します。遠い昔に思いをはせます。ユーモアがある先生、楽しい講座でした。

世界の言語を分類してもらったのが、面白い。

前半は他国の言語との比較が多すぎて少々期待が薄れ…後半の成り立ちは興味深い想いでした。

中国から漢文が伝来した時、当時の日本人は、どのように読んだのでしょうか？返り点とか聞いたのでしょうか？

2年目です。1年目は、少し分りにくいか？と、自分も、かまえた感じでしたが、今回は多数の出席者に驚きでした。ゆっくりと、拝聴する事が出来ました。受講する楽しさが生まれました。